

黎明編 火の鳥

原作/手塚治虫

企画/三木孝信 脚色・演出/東口次登
人形美術/永島梨枝子 舞台美術/西島加寿子
音楽・指揮/一ノ瀬季生 舞台監督/藤田光平
照明/永山康英 制作/中山美津子

共演：篠山火の鳥少年少女合唱団
合唱指導/田村博子・竹内亜紀

時は古代、クマソの国に火の中から何度でも甦り、その血を飲んだ者は永遠の生命を手に入れるという火の鳥がいた。

火の鳥を狙う女王卑弥呼に故郷の村を焼き滅ぼされ、復讐を心に誓うクマソの少年ナギは姉や幼子たちを戦から守るため、火の鳥をしとめる決心をする。

人の欲望が生み出した争いは、誰にも止める事ができないのか。

「子どもの眼が世界を変える」

脚色・演出/東口次登

「この世界は何のためにあり、人は何のために生きるのか?」といった深いテーマを、主人公の少年ナギの目線で、オプラートに包まずに、真っ直ぐ描くことが出来れば、きっと子どもたちも同じ気持ちで観てもらえると思い、作品づくりを決めました。

火の鳥は鳴き叫びます「愚かな人間たちよ、どうして同じ過ちを繰り返すの。自然からもらった生命を大切にしないの」と・・・生命を正しく使うにはどうしたらいいの かきっとナギが教えてくれるはずです。

人形は魂がありません。劇中で生きてこそ、初めて魂が入ります。その「魂=心」は、実は劇を観ている観客の心が反映されているのです。これが人形劇の特性です。ナギの「心」に映ったものは、観ている子どもたちに芽生えた「心」なのです。

2011年3月11日まさに未曾有の東日本大震災が起きました。阪神・淡路大震災を体験したクラルテは、兵庫をはじめ東北・沖縄・北海道と、全国にこの「火の鳥」を届け、共に生きる意味を考えたいと思っています。

この世界はどうして生まれたの
人間は何のために生まれたの

2014年7月26日(土)

開演PM1:30 (開場30分前)
(上演2時間15分 休憩あり)
たんば田園交響ホール TEL 079-552-3600
篠山市北新町41

主催/篠山市・人形劇団クラルテ
後援/兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸新聞社・丹波新聞社
丹波ささやま人形劇フェスタ実行委員会
協力/篠山チルドレンズミュージアム

入場料(税込)【全席指定】
前売/〈一般〉大人2,500円 中学生以下1,500円
【友の会割引・グループ割引(5名以上)】
大人2,000円 中学生以下1,000円
当日/各300円増し(4歳以上有料)
※クラルテとものかい割引あります。
※4歳未満の入場はご遠慮ください。



私たちは、考える、愛する、思いやることのできる存在としてここにいるのです。だったら、この力を思い切り使しましょう。生きる力の中に組み込まれた「争う」という力を、愛する力に転換していく努力をしてこそ、単に「生きる」だけでなく「よく生きる」ことができるのです。これが、私たちがここに生れ、存在する意味なんだよ。「火の鳥」はそう語りかけていると私は思っています。

「火の鳥」パンフレット(宇田の中の存在として)より抜粋

J T 生命誌研究館 館長
中村 桂子

